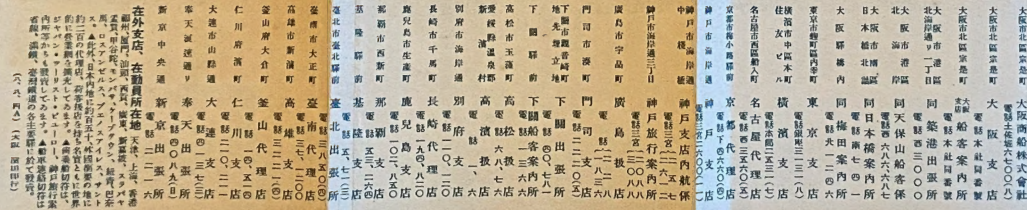


大阪商船

月八年八和順



大阪の海上交通は、内海を航行して、南支那大  
陸と東南亞細亞とを結ぶもので毎日晝夜二回大阪・阪神及び京都府と  
京都府とを結ぶもので毎日晝夜二回大阪・阪神及び京都府と  
に相互出帆、高松・今治・高濱・長崎に寄附して、阪神九州を  
連絡する船が内海の運搬網をなす。この船舶は我國沿岸路最大  
最速の純郵船であり、しかも九千三百七十七噸のひらさき丸、くねな  
丸、六十六噸、及快速船足尾丸の五隻。

郵客運は、阪神間の三番三番第三二三六第一等九圓。阪神今治間三  
番四圓五錢。三番九圓。一三三圓五十錢。阪神高濱間三五圓、  
二十圓十錢。阪神長濱間三番五十二圓十錢、一等八圓、  
二十六圓十錢。阪神明石間三番五十二圓十錢、一等八圓、

大阪神戶通貨船社 溫島と名所と古蹟の繪巻物とを圖ふべき南紀航  
和歌山、伊勢、串本、古志を結ぶ郵船に大阪往復して居ります。白濱・海  
山の參詣に御利用下さい。船客運賃、大阪往邊四等二廿二圓十錢、  
十錢、一等一十圓十錢。大阪浦蒲間三等四十圓十錢、二等八圓二十  
大阪山陽線、每日一回郵船より便手・高松・多度津、阪神由・山陽各  
瀬戸・吳東線、宮口・姫路見物に便利。船客運賃、阪神より坂手  
五錢、門司（四圓六十錢）。（本航路は尼崎汽船部と共に經營す。）  
當國郵船線、毎土曜日より午後六時大坂、同七月十分丹波、翌朝  
五時十分神戸、同七月廿七日大坂に歸着する運送船にて、宮口や岩國の  
二、 equal 舟渡、佐佐木川、片瀬川、等一片瀬川より五分、佐佐木川  
廣島、府前線、山陽と野分大分を連絡するも、毎日一回（八月東京  
住越）。船客運賃、宮口府前間三等二圓七十錢、二等五圓四十錢、一  
大坂多度津線、毎日午後九時大坂、大阪山陽線、一等七圓、坂出船  
時廿分神戸、七時廿分天保山、大阪山陽線、一等七圓、坂出船  
就航。船客運賃、毎月五日、大阪午後二時發、翌五時半神戸發、四日及  
就航。船客運賃、阪神間三圓三十圓、二等二十圓、一等十三圓、  
寬見島那覇線、毎月九回、寬見島、名瀬、那覇間往復。船客運賃  
六圓、二等三圓十六圓、一等廿五圓。  
那覇番艦線、毎週一土曜日那覇發、宮口、八重山、西表、基座  
間を往復して居ります。船客運賃、那覇基隆間特別一等卅圓、一等廿  
六圓、二等廿圓、大坂三分圓。  
大阪唐松線、大阪大分線、大阪鹿兒島線、其他の貨客船航路も毎  
日出帆して居ります。

以上の外本社は内海、近海、遠洋に亘り常に多數の臨時船を使  
用して交通運輸を利便を計つて居ります。海外渡航に、御遊覽に、  
見學旅行に、貨物の運送に、常に弊社船を御利用下さい。

各航路別に御請求の案内書を準備して居りますから、本社又は各地  
支店店頭に御請求下さい。尚定期や運賃は時に變更がありますこと  
に御注意願ひます。

六百噸のイゼル號客半隻丸、那智丸は日一回大阪戸發、  
諸津奥の入港に、潮々、那智大進、新宮、湖峽の見物に、熊野三  
門、四、十、一、等六圓十錢、大阪車本間三三圓七十錢、二等七圓四  
三圓三十錢。  
して門々、小倉に往復、寒霞溪、新、可伏鬼觀音、尾道水園、吾戸  
圓四十錢、新へ二圓七十五錢、尾道へ三圓八十錢、宮島へ三圓三十  
分宮島丸、同日午後三時四十分宮島發、同五時岩國發、月曜日午前  
九時及十一月中旬より翌年二年前八時發、休職、御川、大分  
休職、廣島午後八時發、別府午前八時發、休職、御川、大分  
時多津津、多度津は日午後七時に出て坂田、高松を経て翌朝五  
時三圓九十錢、二等は二錢、一等は三錢。  
名瀬丸、五日午前八時半那智郡、千五百噸の臺中丸、臺南丸、  
三等十圓、二等廿六圓、一等廿九圓。  
名瀬同三等四圓、二等十圓、一等十五圓十錢、鹿兒島那智同三等



大 阪 商 船

昭和八年八月

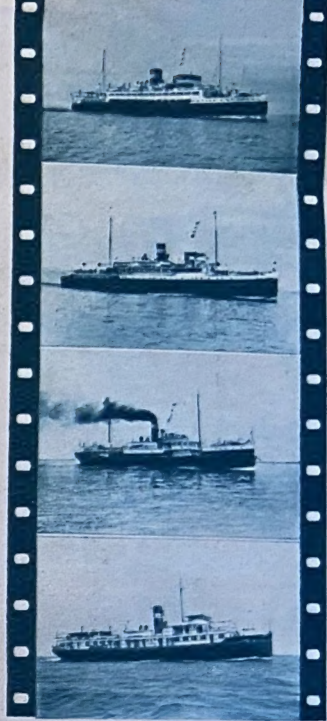


神戸市 海岸通 神戸支店內航係  
 電話三宮二二六二七  
 神戸市 海岸通三丁目 神戸旅行案内所  
 電話三宮三〇〇八八  
 廣島市 宇品町 廣島 支店  
 電話二二八六  
 門司市 湊町 門司 支店  
 電話二二〇五五  
 下關市 觀音崎町 下關出張所  
 電話四〇七八一  
 下關 驛前 下關船客案内所  
 電話三六六六  
 高松市 玉藻町 高松 支店  
 電話六八七六  
 愛媛縣 温泉村 高濱 支店  
 電話一、六  
 別府市 海岸通 別府 支店  
 電話二〇、二〇〇  
 長崎市 千馬町 長崎代理店  
 電話一九四、八二〇  
 鹿兒島市 生産町 鹿兒島 支店  
 電話一〇二、八五〇  
 那覇市 西新町 那覇 支店  
 電話五三、二六〇  
 基隆 驛前 基隆 支店  
 電話五、七三三  
 臺北市 臺北驛前 臺北出張所  
 電話三三八五〇  
 臺南市 大正町 臺南代理店  
 電話三七、二〇〇  
 高雄市 新濱町 高雄 支店  
 電話三二二、一四〇  
 釜山府 大倉町 釜山代理店  
 電話一四、五四  
 仁川府 濱町 仁川 支店  
 電話二二〇、二一  
 大連市 山縣通 大連 支店  
 電話四一三七三  
 奉天 浪速通り 奉天出張所  
 電話四〇八九九  
 新京中央通 新京出張所  
 電話二一六  
 在外支店、在動員所在地 天津、上海、香港  
 福州、廈門、汕頭、西貢、廣東、新嘉坡、スラバヤ  
 孟買、甲谷陀、モンパサ、プエノスタウン、紐育、巴奈  
 馬、ロサンゼルス、ブエノスアイレス、サント  
 約二百の代理店、荷客接店を持ち各貨物にも世界的  
 的に營業網を擴充してゐます。尚乗船切符は、  
 ジャパン・ツァーリスト・ビュロー、神戸旅行案  
 内所等からも發賣してゐます。○船單連絡切符は  
 省線、滿鐵、臺灣鐵道の各主要驛に於て發賣。









別府航路線九

勝浦急行船部管九

多度津航路大智九

山陽航路音戸九

内地航路

大阪別府線 「世界の海上公園」瀬戸内海を航行して、商工都市阪神と泉都別府とを結ぶもので毎日昼夜二回大阪神戸及び別府大分から相互出帆、高松・今治・高濱・長濱に寄港して、阪神四國九州を連絡する瀬戸内海の遊覧船であります。使用船は我國沿岸航路最大最美の純客船みどり丸・すみれ丸(千七百噸)むらさき丸、くれなゐ丸(千六百噸)及快速船屋島丸の五隻。

船客運賃、阪神高松間三等三圓、二等六圓、一等九圓。阪神今治間三等四圓五十錢、二等九圓、一等十三圓五十錢。阪神高濱間三等五圓、二等十圓、一等十五圓。阪神長濱間三等五圓五十錢、二等十一圓、一等十六圓五十錢。阪神別府間三等六圓、二等十二圓、一等十八圓。等十六圓五十錢のディーゼル純客船牟婁丸・那智丸が毎日一回大阪神戸發、和歌浦・田邊・串本・古座を経て勝浦に往復して居ります。白濱・湯崎・勝浦諸温泉への入湯に、潮岬・那智大瀧・新宮・瀧峽の見物に、熊野三山の参詣に御利用下さい。船客運賃、大阪田邊間三等二圓二十錢、二等四圓四十錢、一等六圓六十錢。大阪串本間三等三圓七十錢、二等七圓四十錢、一等十一圓十錢。大阪勝浦間三等四圓十錢、二等八圓二十錢、一等十二圓三十錢。

大阪山陽線 毎日二回阪神より坂手・高松・多度津經由、山陽各港に寄港して門司・小倉に往復、寒霞溪・瀬・阿伏鬼觀音・尾道水道・音戸瀬戸・吳軍港・宮島・錦帯橋見物に便利。船客運賃、阪神より坂手へ三等二圓四十錢、瀬へ二圓七十五錢、尾道へ二圓八十錢、宮島へ三圓三十五錢、門司へ四圓六十錢。(本航路は尼崎汽船部と共同經營です)

宮島遊覽船 毎土曜日午後六時大阪、同七時四十分神戸發、翌朝八時三十分宮島着。同日午後三時四十分宮島發、同五時岩國發、月曜日午前五時三十分神戸、同七時半大阪に歸着する遊覧船で、宮島や岩國の錦帯橋遊覽に最も便利。船客運賃、三等阪神宮島間片道三圓五十錢、往復六圓、二等片道七圓、往復十二圓、一等片道十圓五十錢、往復十八圓。(六月、九月及十一月中旬より翌年二月下旬まで休航します)

廣島別府線 山陽と別府大分を連絡するもので、毎日一回(毎水曜日に限り休航)廣島午後八時發、別府午前八時發、宮島・柳井・鶴川・大分往復。船客運賃、宮島別府間三等二圓七十錢、二等五圓四十錢、一等八圓十錢。

大阪多度津線 毎日午後九時大阪天保山發、神戸・高松、坂出經由午前八時多度津着、多度津は毎日午後七時に出て坂出、高松を経て翌朝五時分神戸、七時分天保山着。阪神・高松間三等二圓七十錢、阪神多度津間三等二圓九十錢、二等は二倍、一等は三倍。

大阪別府線 毎月五回、大阪午後二時發、翌正午神戸發、四日午後二時名瀬着、五日午前八時半那覇着、三千五百噸の臺中丸・臺南丸。就航。船客運賃、阪神名瀬間三等八圓、二等二十圓、一等三十圓、阪神那覇間三等十圓、二等廿六圓、一等卅九圓。

鹿兒島那覇線 毎月九回、鹿兒島、名瀬、那覇間往復。船客運賃、鹿兒島名瀬間三等四圓、二等十圓、一等十五圓五十錢、鹿兒島那覇間三等六圓、二等十六圓、一等廿五圓。

那覇基隆線 毎週一回土曜日那覇發、宮古・八重山、西表、基隆間を往復してゐます。船客運賃、那覇基隆間特別一等卅圓、一等廿六圓、二等廿圓、三等十圓。

大阪若松線、大阪大分線、大阪鹿兒島線 其他の貨客船航路も毎日出帆してゐます。



屋嶋 別府温泉 阿蘇山 勝浦温泉



Table with shipping agent information. Columns include location (e.g., 大阪市北區宗是町, 大阪市北區宗是町), agent name (e.g., 大阪商船株式會社), and phone number (e.g., 電話土佐堀六七〇〇).



遠洋航路

翌朝又大阪を中心とする上運設業は、折から文明開化の風潮に乗  
て着々と好成績を挙げ、その結果大阪商船株式會社の成立が  
西南役後、此等の小會社が結成の機運に達し、此處に大阪商船株式會社は生  
れました。時に明治十七年五月でした。當時は僅々本州内航船業、使用汽船  
も一萬七千餘噸、航路總長も四九千六百哩で、伊予瀬戸内航船株式會社、關西國  
土に過ぎなかつたので、留保茲に半世紀明和九年には五萬噸を躍え  
やうとしてゐます。その間事業は年々盛んとなり、船隻も増資を爲し、船泊經營社  
健全々要因を告げ、資本金一億圓、堂々世界海運界に雄飛する「大海運會社」  
上りて内外に降々たる威名をかち得、今や所有船舶總延長五十五萬噸、地球  
上到處の海面に航路を以て定期航路五十七餘條、航路總延長三十三萬二  
千餘哩に達し、内容の充實と共に事業益々進展の途にあるのであります。

大坂商船株式會社



南米航路のよき知らせ



室話談部一丸すれいあすのえふ



日滿連絡船すうりい丸



食等一丸いりす

[illegible]

大連大廣場	臺海總督府
-------	-------



鹿 近 附 オ バ ダ      シ ル 本 ル



九



ス ヴ イ ア ス ノ エ フ



四 有 事 也 故 有 事



シウクフー！



場 廣 大 速 :













